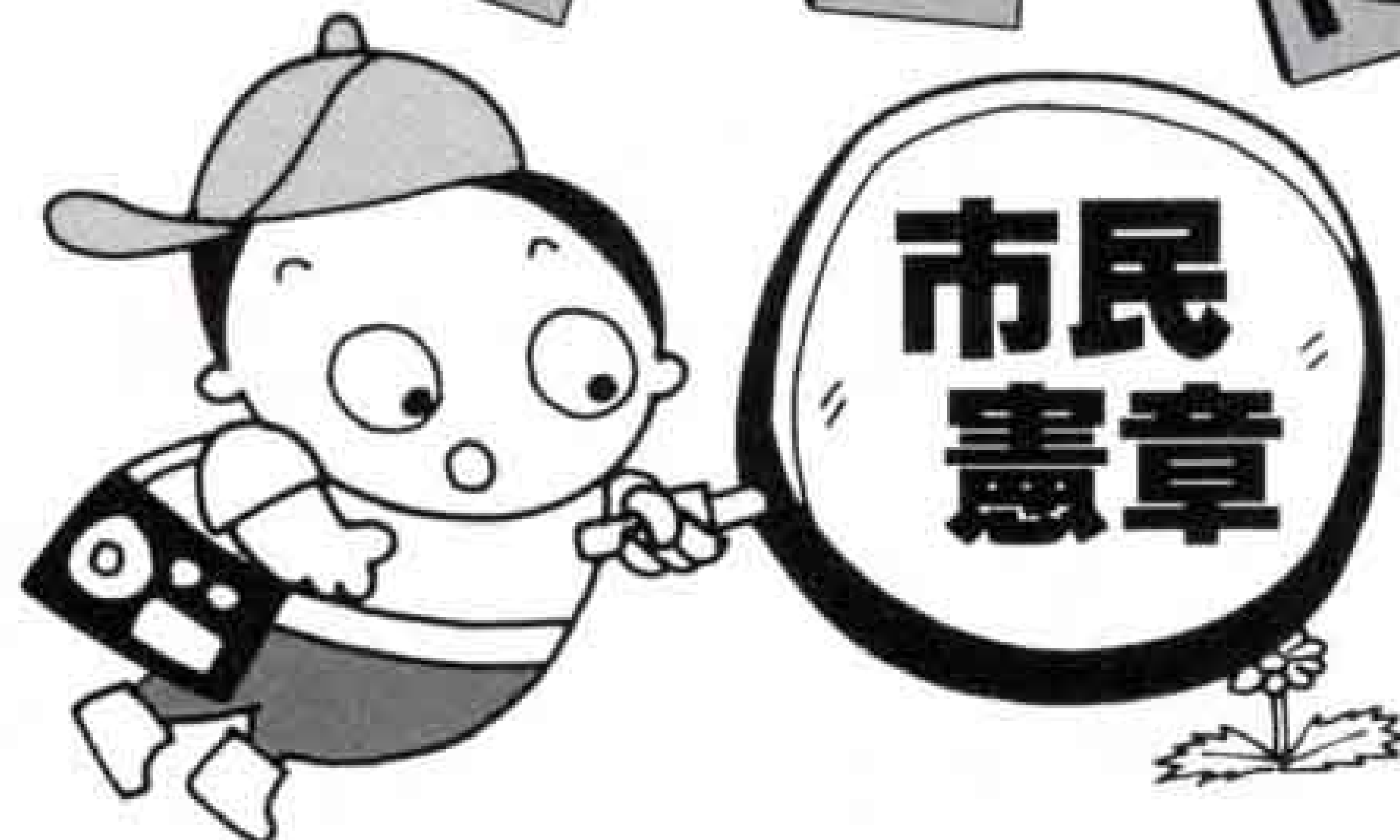


ふるさとのお話

こなとこに



1、富士山のように美しく自然を愛しきれいな環境をつくります

道路を毎朝きれいに



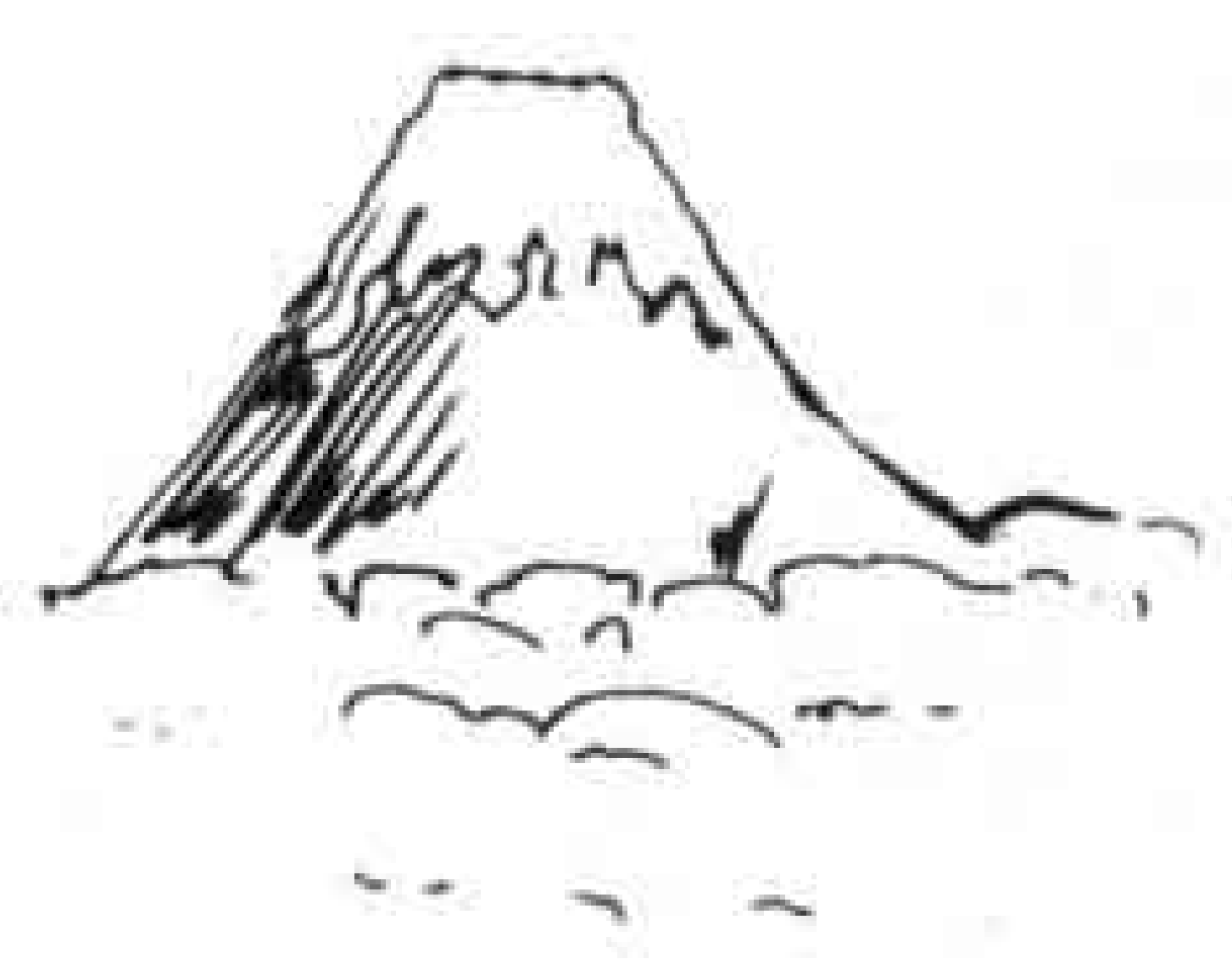
高木トラさん

きれいな環境の街は、だれでもが願うことですが、道路には至るところに空き缶やたばこの吸い殻が捨てられています。

捨てる人あれば拾う人ありというわけではありませんが、毎朝道路のごみを拾い、街をきれいにしている人がいます。西船津の高木トラさん（87歳）です。

高木さんは春山老人会ゲートボールチームの最長老として、毎日ゲートボールを日課としています。自宅からゲートボール場に行く約10分ぐらいの道のりをきれいにしています。

高木さんは「菓子の袋やたばこの吸い殻で、スーパーの袋が毎朝一ぱいになるね。これも私の健康法の一つかな。このごろは、小二のひ孫も手伝ってくれることがあるよ」と明るく話してくれました。



富士塚



鈴川の富士塚

元吉原中学校の西百メートルほどのところに、富士塚と呼ばれている小山があります。今回は、この塚に伝わる話を鈴川西町の小川修一さんに語ってもらいました。

役の行者がつくる

今から約千三百年ぐらい前、役の行者と呼ばれた行者がいました。役の行者は修験道の開祖といわれ、伊豆大島に流されたときに、夕方島を出て富士山に登り、朝には帰ってきたといわれる人です。あるとき、役の行者は富士山の見える国々に、富士山をなぞらえた高さ三丈（約九尺）ぐらいの小山をつくり、富士山を拝む場所としました。富士塚はその内の一つといわれます。

富士登山の安全を祈る

室町から江戸時代には、富士山で修行する修験道者が急にふえました。修験道者は鈴川海岸で水を浴び、身も心も清めました。そして、玉石を一つずつ富士塚にささげ、富士登山の安全を祈りました。

北条氏の本陣となる

また、富士塚は天の香久山とも



話してくれた小川修一さん

言われました。戦国時代には香久山のとりで、香久山城、あるいは吉原城とも呼ばれました。富士塚は吉原湊を控えた要衝で、この制覇をめぐる争いが起こりました。北条氏康・氏政親子は、富士塚を本陣として、今川・武田氏と戦いました。

昭和五十一年に復元

その後、富士塚は戦争前ごろまで静寂として、神秘的な場所でした。ところが、昭和四十年ごろから、灯笼や玉石を持ち去られるようになり、四十五年には、ほこらまでなくなっていました。

現在の富士塚は、昭和五十一年に地元民の寄附などで復元されたものです。

地名の由来

なか 島



△富士緑道は中島のオアシス

中島村は古郡氏の加島新田開発によって成立した村です。中島という名称の由来は明らかではありませんが、加島平野の村々は富士川の洲にできた村ですから、中島は川の中の島という意味と思われる。

加島という名称については、吾妻鏡が賀島としてあることから、喜びの島、あるいは豊かな島という意味があり、カジマとしたという説があります。

こちら編集室

「やっぱりもうオジシかな」と思わずひとり言を言ってしまったのが、七ペーじで紹介した「時の雫」の皆さんの取材。「ファミコンとは違う、いわゆるシューミレーションゲームの一つで」と親切に説明をしてくれましたが、「はて？」そう言えばこの間、アイドル歌手の顔がみんな同じに見えたっけ。ゲゲッ!!